

(様式2)

平成 22 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1570102077		
法人名	社会福祉法人 燦祥会		
事業所名	グループホーム はまべの里		
所在地	新潟市北区島見町2190		
自己評価作成日	平成23年3月5日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.n-kouhyou.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成23年4月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】<東西共通>

グループホーム はまべの里は、市街地から少し離れた古くからの農村地帯にあります。近くには緑地公園があり緑豊かで静かな環境です。建物は木の温もりを感じ、また中庭と畑があり木や花、果実、野菜で季節を感じることができます。この1年、現場主体の組織作り、意識付けに努めてきました。法人、事業所の理念に基づき事業所の目標、計画を作成しました。事業所理念、目標である「二人三脚＝心に寄り添うケア」の理解を深め、各ユニットで目標を作り取り組んでいます。利用者一人一人の生活に合わせ、自分らしい生活が実現出来るよう、利用者個人の把握、理解に努めケアしています。利用者、職員の「気づき」を大切にし適宜カンファレンスを行い、プランの作成、ケアの統一、評価を行っています。また、利用者、家族に満足していただけるよう、家族との関わりを大切に、家族の一員である意識付けや取り組みをしています。職員教育に関しては、職員自身の自己実現のため、細かい指導、マニュアルの見直し、業務改善、人事考課の見直し、個人目標に取り組みスキルアップを図っています。共有、協力、連携、相談、報告の徹底、及び環境作りにも努めています。研修が不十分であるが、会議開催時に必要な勉強会や資料の配布をし、共通理解、及び意識付けをしています。計画的に研修が実施出来るよう、取り組んでいきたいと思っています。地域交流では自治会に入会しました。地域の中の一員として開放的であり、グループホームとしての役割や理解を深めて頂き、地域参加の具体化を考慮していきたいです。保育園、学校との関わりは少しずつ出来てきています。また、運営推進会議にて地域との連携やネットワーク作りにも積極的に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

もともと造園関係に携わっていた運営者が、ヨーロッパへ視察に行った際触発を受け、これからの介護には環境が大切だという思いから設立された事業所である。のどかな田園地帯に事業所は位置しており、瓦葺屋根の平屋造りであるため、周囲の環境に溶け込み、施設的な威圧感を感じさせない雰囲気である。また、中庭には、季節の変化を感じることの出来る木々が植えられており、運営者が直接手入れを行っている。

事業所は、「気づきを大切に、現場主体のケア」を重視しており、2年前に管理者が交代したことで、当初から在籍している職員が数名という現状を踏まえ、平成13年の開設以来変わることのなかった理念をあらためて見つめ直した。現場職員が「大切にしたい思い」をまとめあげより具体的な内容となった。

地域との関係はこれまで毎年課題とされていたが、自治会への加入を足がかりに、認知症サポーター養成講座を企画したり、地域行事への参加を具体的に考えるなど、より前向きな姿勢で取り組んでいる。学生の研修を多く受入れているが、事業所をオープンにすることで職員の質の向上をめざしており、最終的には利用者の利益につながると考えている。運営推進会議には多彩なメンバーの参加を得ており、事業所間の連携や地域との連携が利用者や家族の利益につながるとの考えが反映されている。その他、東日本大震災の被災者を受入れるなど、行政との連携にも積極的に取り組んでいる。

開設10年目の事業所であるが、現状に満足することなく、前回までの外部評価結果を前向きにとらえ、職員教育に力を入れたり、組織改革に取り組むなど着実に改善を積み上げてきた。「気づきを大切に、現場主体のケア」を基に事業所理念の実践が、今後も大いに期待できる事業所である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>今年度は職員で理念を作り直し、理解を深めることができた。入社時、理念について説明している。</p> <p>理念の理解を深め、事業所計画、ユニット目標を作成している。</p>	<p>現在の理念は平成23年1月に職員全員が現状の課題を踏まえ、熟考の末作り変えたものである。平成13年の設立以来理念は変わっていなかったが、当初から在籍している職員も数名となり、あらためて理念について考える機会を持つことで、「大切にしたいこと」の方向性を統一できた。理念を基に各ユニットで目標を立て、年度毎に評価を行っている。管理者と職員は、課題意識を持って理念の実践に取り組んでいる。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>自治会に加入し情報を得ている。広報誌の配布や納涼祭にて交流の機会をつくっている。今後も具体的な取り組みを考えていく。</p>	<p>地域行事への参加が少なかったが、平成22年1月より、法人として自治会に加入したことから、地域への関わりの間口が広がった。併設のデイサービスの利用者、家族の口コミから、地域への認知度が広がりつつあり、利用者が一人でホームを離れた時に、利用している地域の美容室から声をかけてもらえる等の関係も出来ている。今後は下水清掃等の地域行事への参加や認知症サポーター養成講座の開催等、更に地域とのつながりを深めていくための活動が計画されている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>具体的な活動を考えている。認知症サポート講習や様々な介護相談など出来るよう地域包括と相談し計画を作成している。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2月に1回運営推進会議を行っている。報告や情報交換、他、率直な意見をもらって、今後に活かしていけるよう取り組んでいる。会議参加者も充実を図っている。</p>	<p>一般的な参加メンバーの他に、区内の他施設(グループホーム、小規模多機能施設、老人保健施設)の職員や、今後の重度化を考えて病院の医療相談員の参加を得ている。毎回テーマを決めて、広報誌等を見ながら意見が出やすいように工夫しており、「分かりやすい看板を設置して欲しい」等、具体的な意見交換がなされている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村、地域包括支援センターと連絡を取り合い、支援に関する情報交換を行なっている。	地域包括支援センター主催の地域密着型サービス事業所会議で取り組みの助言を受けるなど行政との連携が行われている。管理者は、ちょっとした疑問や利用者の日常的な支援の部分での相談なども行い、行政とのつながりを作ることを重視している。また、東日本大震災の被災者の受け入れを、行政と連携して積極的に行っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間のみ施錠をしている。玄関、中庭の戸は自由に開閉出来るようになっている。研修やその都度説明し職員の周知を図っている。	マニュアルが整備され、研修会も実施されている。「ちょっと待ってて」など無意識に出る言葉も行動制限と考え、随時話し合いを行い、現場で考える力を育てている。朝の散歩が日課の利用者には安全面を十分考慮した上で一人で散歩してもらうなど、利用者の「自由」を支援している。	
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修やその都度説明行い、職員の周知を図っている。また、虐待により入居された方の支援や家族支援に関して十分な配慮が出来るよう努めている。	外部研修や内部研修で関連法について学ぶ機会を持っている。不適切なケアや言動についてはその都度管理者が指導し、月1回の会議で個別のケースについてケアの点検を行っている。管理者や計画作成担当者は、職員がストレスを溜めないように常に配慮し、職員の話をよく聞くようにしている。メンタルヘルスケアの伝達研修を行う等、職員の精神面のケアにも配慮している。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な方への支援は地域包括支援センターや社会福祉協議会と連携し行っている。職員は支援員の訪問に関わり対応しているが、周知はまだされていない。研修の機会を作っていく。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度必要なことに関して説明を行っている。また解約に関しては、相談、支援の配慮をし、納得、理解して頂けるよう努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事を計画し参加していただき意見を伺ったり、面会時の面会簿に意見欄を設けている。また、苦情に関する意見箱を設置している。	利用者の日々の何気ない一言を大切に捉えて検討しており、他者に無断で部屋に入られることを不安に思う方には部屋に専用の鍵を取り付ける等、要望に随時対応している。管理者は、家族には悪いことも良いことも伝えるように職員へ指導しており、家族との関わりを増やすことで直接意見を言ってもらえるようになった。	家族の声はサービスの質の向上に不可欠といえる。意見箱の設置や、面会時の工夫はあるが、匿名性の確保という点から、無記名式のアンケートを行う等、さらに家族が意見を出しやすい環境づくりを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の全体会議、申し送りじかんなどを利用し意見しやすい環境づくりに努めている。また、幹部会議の内容を職員に伝達し、職員の意見などは幹部会議にて相談している。	「現場主体の気付き」を大切にしており、ケアに関するだけでなく、設備面での提案が日々職員から挙がっており、随時運営に反映させている。また、目標管理制度を設けており、運営者による面談の際に職員が「施設に望むこと」を表明できる機会がある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課の作成、実施をし適切に面談を行い、評価している。また、話し合いの機会を頻繁に設けている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修の計画、実施、また細かい指導が出来るよう努めている。人事考課の活用で、個々の能力の把握をし指導、助言の配慮をしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修での関わりや受け入れ、情報交換の機会をつくり交流を図っている。また、外部研修計画を作成、実施していく。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と向き合い、気持ちを受け止め声に耳を傾けたりしながら、安心を確保していく関係づくりに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族などの話を聞き、それを理解し受け止めるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の本人・家族の実情や要望をもとに、その時点で何が必要か見極め対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしい生活が出来るよう支援している。信頼関係づくりを念頭においている。関わる時間が持てるよう努めている。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族関係の継続、維持に努めている。利用者、家族に離れていても家族である事の意識付けや取り組みをしている。	日々本人の言葉に耳を傾け、また、面会の際家族に生活歴の聞き取りを行うことで、現在の本人を共に理解するための協力関係づくりをしている。介護計画にも家族による支援を明確に盛り込むことで、「家族の役割」を意識してもらえるようにしている。また、家族とのより良好な関係を築けるよう接遇マナーの研修にも力を入れている。面会の際は本人の日々の様子を家族に伝え情報を共有している。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の声かけや、通院の継続はできているが、そのほかは家族などの協力が無いと困難である。	利用開始の際、本人の生活背景を家族から聞き取り把握に努めている。入居前に併設デイサービスを利用されていた場合は、入居後も行き来できるようにしている。入居前からのかかりつけ医への受診を継続できるようにしたり、ドライブの際には途中で入居前の住居の近くを通るなど、利用者が大切にしてきた関係が途切れないよう取り組んでいる。	本人が築いてきた生活や関係を理解するための情報収集はしているが、それらは見やすく確認しやすい形で整理されておらず、また、馴染みの場所等への支援の幅も限定的である。より有効活用ができるよう情報収集や整理を行い、本人の生きがいや意欲向上の可能性の幅を広げる取り組みを期待したい。
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わり合いの取り持ちや雰囲気づくりをしている。		
22		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からの連絡があれば都度現状を伺っている。またサービス事業所、施設との連絡を取り現状の把握に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の訴えに対して職員間で都度話し合いをし、出来る範囲(例、買い物等)で対応している。	日々の何気ない利用者の言葉や会話内容を丁寧に拾い上げて、その人らしい暮らしを支援するために活かしている。管理者は、利用者の思いを引き出すにはリラックスした場面を作ることが重要と考え、例えば何気ない鼻歌からも、どんな歌が好きか、どの時代を生きているのかを知り、どんな気持ちでいるのか考えるヒントとなることを職員に指導している。把握が困難な場合は、反応や表情から汲み取るようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	少しでも利用者様が以前の生活環境に近い状態にする為に、一人ひとりの生活歴など、ご本人、家族から伺い、家族との情報交換をしている。	入居の際、本人の生活背景を家族から聞き取りしている。入居後は、面会の際に家族に聞いたり、日々の関わりの中で本人に聞くなどして、生活歴や細かな生活習慣の把握に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの訴えに対し相談や、些細な事でも耳を傾け、少しでも不安を取り除き、安心を図る。また、身体機能に合わせた活動の促しを行っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	問題が生じた場合、職員間で会議(話し合い)をして、迅速に対応できる様にしている。また、カンファレンス会議録に記載、回覧し職員に周知してもらう。月1回ケアカンファレンス等も行っている。	毎月モニタリングを、半年から1年毎に介護計画の見直しを行っているが、現場職員の気付きを大切にして状態に変化があった時などは臨機応変に介護計画を見直している。しかし、介護計画のための話し合いに、本人や家族の参加が得られていない。	介護計画は本人のために作成されるものである。事業所理念に基づいた介護計画となるためには、関わっている多くの関係者のアイデアを活かすことが不可欠であり、時には自宅へ出向く等の工夫をして、本人・家族を含めた介護計画のための話し合いを行い、利用者本位の介護計画が作成されることを期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常に職員間で利用者様(一人ひとり)の変化、異変等を話し合い介護に生かしている。また、ケア評価などに活かしている。職員が気づきを声にし、話し合い、情報交換している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人の人を支えていく場として、その場その時のニーズに応じて臨機応変に柔軟な支援、サービスを行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣保育園の慰問や外出の機会を設け、気分転換をしていただく。デイサービスとの交流の機会も増えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人の希望を重視するとともに、できるだけ家族と通院に行けるよう協力を要請している。</p>	<p>本人、家族の意向に基づいた医療機関から適切な医療が受けられる体制になっている。定期的な受診は、家族と事業所が協力しながら臨機応変に対応しており、職員が家族とともに同行することもある。受診結果は、「受診報告書」で家族と情報を共有している。医療機関へは日々の健康観察記録等により情報提供し連携を図っている。突発的な体調の変化等には、併設デイサービスの看護師のアドバイスを得て適切な受診につなげている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>介護職は毎日バイタル測定を行い、生活記録に記入している。変化があれば看護師に報告、連絡し、指示を仰ぐ。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>管理者より情報交換、相談をさせていただいている。医療機関の関連職種とのカンファレンスの機会をつくってもらったり、情報交換を行わない連携をとっている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合や終末期のあり方や事業所の対応について段階ごとに家族、かかりつけ医との意向を確認しながら、職員全員でどこまで支援できるかを話し合いチームで行っている。</p>	<p>入居時に、設備や人員配置の関係から基本的に重度化や終末期への対応は難しいことを本人・家族へ説明し、了解を得ている。次の生活場所が決まるまでの間、可能な範囲で最大限の対応するという方針のもと、本人の状態を見ながらその都度関係者と話し合いを重ね、方向性を共有している。今後の利用者の重度化を考えて運営推進会議に病院の医療相談員や老人保健施設職員の参加を得て、普段から連携体制の構築に努めている。</p>	
34	(12-2)	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>必要に応じて看護師から応急方法を教わり実施している。講習会の実施をしている。</p>	<p>緊急時の対応マニュアルをいつでも手に届く場所に設置すると共に、利用者個々の医療に関するマニュアルを用意している。職員は消防署の救急救命法の講習会に参加している。</p>	<p>入職3年以内の職員が多く、誤飲・意識低下・転倒骨折・嘔吐等身近に起こりうる事態への初期対応・応急手当について不安がある。看護師から定期的に実技指導の訓練を受ける等、急変や事故発生時に備え、継続的に職員の実践力向上に取り組んでほしい。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を実施し、緊急連絡網を作成している。地域との連携は運営推進会議において具体的な取り組みを図っている。	年2回定期的に併設施設と合同で防災訓練を実施しているほか、事業所単独で夜間を想定した避難訓練を利用者も参加して行っている。地元消防団との連携については、運営推進会議で具体的に連携方法を検討しており、地域の防災訓練にも参加する予定である。計画停電のマニュアルも作成され、その他の災害対策についても随時見直しされている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が、誇りやプライバシー確保を徹底している。基本に関しては、会議等で再度確認しあっている。	事業所では、身体拘束の禁止、虐待の防止と共に、プライバシーの確保を重要視しており、部屋に入室する時や、行動の前には必ず本人に声をかけることを心がけている。認知症に関する研修や接遇の研修を行っており、その人に合わせた声かけや人格を尊重した言葉かけを行うことを職員が常に意識している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や好みを表情や全身での反応を注意深くキャッチし、把握し支援できるように取り組んでいる。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	まだまだ職員側の都合やスケジュールに当てはめている現状。それに慣れている方々で居る。少しずつ一人ひとりが本来もっている、望んでいるペースに近づいている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の嗜好を伺い、衣類などの購入をしたり、買い物に行く機会を設けている。また選択出来る方法で声かけの工夫を行ったりしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り、利用者も食事に関する作業に参加してもらっている。調理にも参加出来る様会議で話し合いが持たれた。	毎日の食事に関する評価を委員会で検討し、その結果を反映しながら、季節の食材を使った献立を作成している。利用者一人ひとりの力に応じ、下ごしらえや盛り付け、お茶だし、後片付けなどを一緒に行い、皆で食事を楽しめるよう支援している。また、ちまきの作り方を教えてもらう等、利用者が活躍できる場面を設けている。弁当を作って近隣の公園へ出かけたり、選挙の投票の後に甘味処に立ち寄り等、外食も気軽に楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量、水分量は記録に残している。糖尿病の方には目安の表を貼り紙し、工夫しながら支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、うがいの声かけ促しをしており、大半の利用者はできている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレに自分の力で行けない方にはだいたい決まった時間にトイレに行くよう促し、トイレで排泄できるように努めている。	センター方式のアセスメントシートを活用してきめ細かな排泄パターンの把握を行い、本人の仕草やサインを見て、個々にあった排泄支援を行っている。排尿の感覚が失われないように、日中は普通の下着を着用しパット等を使用せず対応しているケースもあり、失敗しても自信やプライドが傷つくことがないような対応を全職員で心がけている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には下剤を飲んでいただき、調子によって下剤の量を調節している。自立している方にも声を掛けて出たかどうかを確認している。また、体操の時間を設けている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ある程度の間隔で順番に入れるように努めている。利用者の希望に応じられるよう努めている。	入浴は午前・午後とも行っており、利用者個々の習慣や「一番風呂に入りたい」等の希望に可能な範囲で対応し、入浴が楽しいものとなるよう取り組んでいる。入浴を好まない方へは、なぜ入浴したくないのかその理由を考え、無理強いせず、声かけを工夫して対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜中に巡回をし、表情の変化を確認したり、眠そうになっている方には声を掛け、休むよう促している。日中は利用者の状態に応じて休息の時間を取れるよう配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの病気、薬の理解に努め、状態確認や症状の把握、記録をしている。利用者には分かりやすい言葉で説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者さんが興味を示したものは職員も積極的に行うようにし一緒に楽しんでいる。昔馴染みの手作りおやつなどの提供。また気分転換のための外出、外食の機会を設けている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の要望に合わせた外出や職員が買い物に行く時に一緒に行ったり、天気が良いときには庭に出て職員と一緒に散歩したりしている。また、家族への声かけも行っている。	ホーム内のみで1日を過ごすことの弊害を職員は良く理解しており、天候を見ながら可能な限りの外出を心がけている。日々の食材は業者が配達しているが、日用品等については利用者と一緒に買物を楽しんでいる。月1回イベントを設け、花見や地域の観光地等に出かけている。また、墓参りや法事等、本人の希望する場所への外出が行えるよう家族とも協力体制を取っている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と時々買い物に出かけている。能力に合わせた対応を行っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から要求があったときや職員が必要と判断した時は家族への電話の支援は行っている。また家族にも理解して頂けるよう説明している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレなどには不快な思いをしないように自分なりに目くばり気くばりに配慮し、清潔に保つようにしている。また、季節のかざり等の工夫をしている。	リビングは採光が良く適度な広さで、大きな窓からは中庭が見渡すことができ、四季や時間の流れを感じることができる。季節の花や利用者の手作り品を飾るなど、利用者が落ち着いて過ごせるよう親しみやすい雰囲気づくりをしている。また、随所にベンチを置き、気の合う利用者同士で過ごせる場を作っている。職員の動きはゆったりとしており、気になる騒々しさもなく、環境の一部として馴染んでいる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりリビングに自分の席があり、自席でテレビを見たり新聞を見られたり、職員、他利用者と過ごされる。自由に過ごされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	横になってテレビを見られるようにテレビの位置を考えたり、本人の必要な物は家族と相談し準備して頂いたり、なるべく本人の要望を取り入れている。また、湿度、明るさなどにも配慮している。	居室の入り口にはそれぞれ柄の違う暖簾がかけられ、扉の取っ手もそれぞれ色を変え、利用者にとっての目印となっている。居室は基本的に洋室であるが、畳が持ち込まれた居室もあり、その際は段差解消スロープを貸し出し安全に過ごせるよう配慮している。壁は温かみのある素材で、天井も適度な高さで圧迫感がない。個々に趣味の品や仏壇を持ち込んだり、写真を飾る等、個性のある居室もあり、利用者一人ひとりにとって居心地の良い空間づくりがされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力、理解力、出来る事の把握に努め、出来ること、やりたいことの援助をしている。職員は安全を常に考慮し対応している。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当する項目に 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない